



東京証券取引所スタンダード
証券コード 7808

株式会社シー・エス・ランバー

2025年5月期 決算説明会

2025年7月29日開催



※写真は株式会社シー・エス・ホーム施工 大型福祉施設 2025年4月完工

1. 当社の概要
2. 2025年5月期 決算概要
3. 2026年5月期 業績予想
4. 中期経営計画2025及び新中期経営計画2028
5. 参考資料



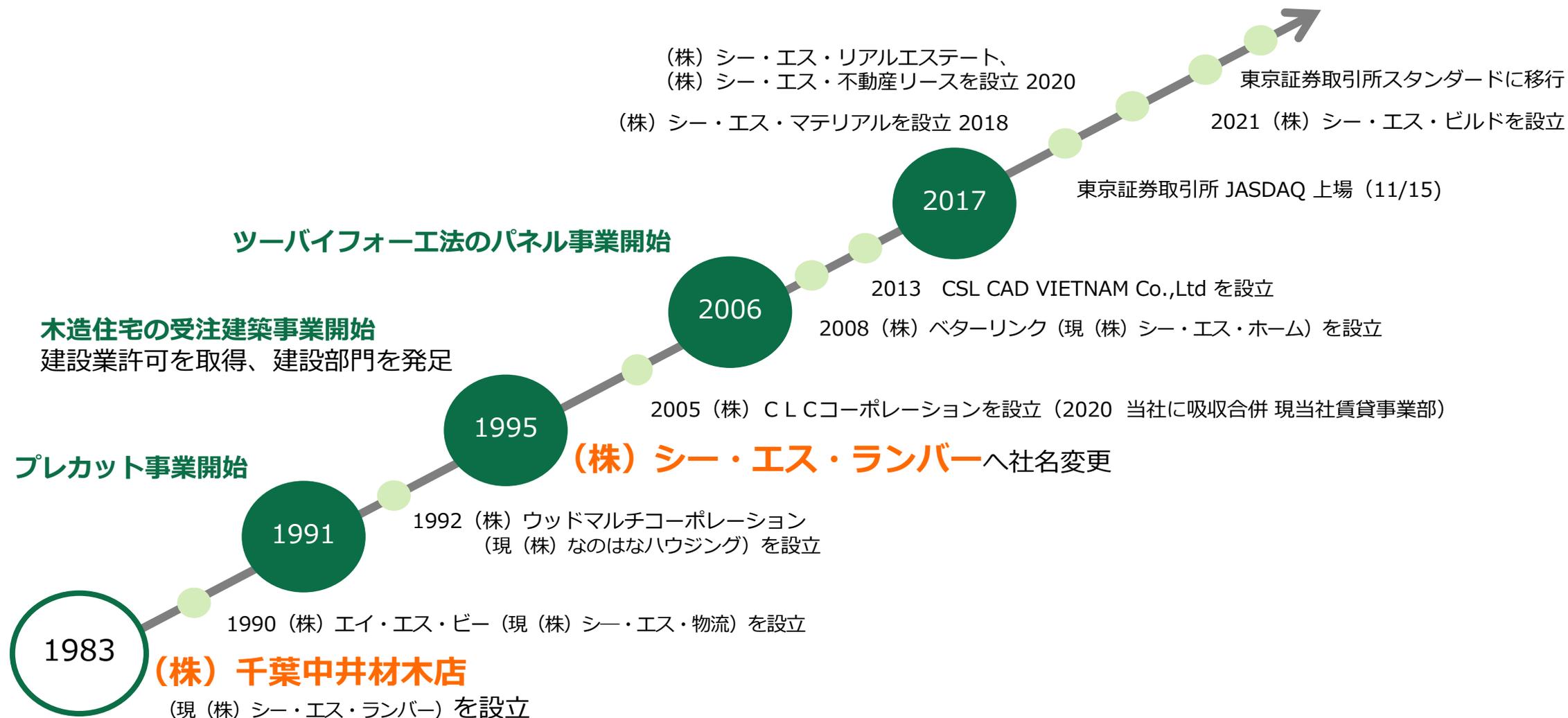
Customer Satisfaction through Lumber

木材を通じて顧客に満足戴ける取引に徹する

会社名	株式会社シー・エス・ランバー
本社所在地	千葉県千葉市花見川区幕張本郷一丁目16番3号
代表者	代表取締役社長 中井 千代助
設立	1983年4月1日
資本金	536百万円
事業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. プレカット事業 <ul style="list-style-type: none"> ● 在来軸組工法における設計、木材のプレカット加工及び販売 ● ツーバイフォー工法における設計、木材のプレカット加工、パネルの製造及び販売 2. 建築請負事業 <ul style="list-style-type: none"> ● 木造住宅・大型木造施設の建築請負 3. 不動産賃貸事業 <ul style="list-style-type: none"> ● 不動産賃貸・管理 4. その他事業 <ul style="list-style-type: none"> ● 不動産の販売
従業員数	連結 328名 他に臨時従業員 115名

(2025年5月末現在)

木材を熟知する材木店から、木造建築のトータルサービス企業へ



1. 当社の概要
2. 2025年5月期 決算概要
3. 2026年5月期 業績予想
4. 中期経営計画2025及び新中期経営計画2028
5. 参考資料

2025年5月期 決算概要



- 売上高20,673百万円（前期比△2.2%）、経常利益1,680百万円（同△19.3%）、当期純利益1,157百万円（同△19.3%）
- 前期比マイナスは主にプレカット事業の減収減益が要因。
- 建築請負事業や不動産賃貸事業は二桁の増収増益。

単位：百万円	2024年5月期		2025年5月期			
	実績		実績		前年同期比	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
売上高	21,132	100.0%	20,673	100.0%	△459	△2.2%
プレカット	16,378	77.5%	15,249	73.8%	△1,128	△6.9%
建築請負	4,408	20.9%	5,170	25.0%	761	17.3%
不動産賃貸	916	4.3%	1,123	5.4%	206	22.6%
その他	581	2.7%	356	1.7%	△224	△38.6%
粗利益	4,700	22.2%	4,333	20.9%	△367	△7.8%
プレカット	3,580	16.9%	3,070	14.8%	△509	△14.2%
建築請負	550	2.6%	630	3.0%	79	14.4%
不動産賃貸	483	2.3%	585	2.8%	101	20.9%
その他	83	0.4%	45	0.2%	△37	△45.1%
販売費及び一般管理費	2,526	12.0%	2,558	12.4%	32	1.3%
営業利益（セグメント利益）	2,174	10.3%	1,774	8.6%	△399	△18.4%
プレカット	1,284	6.1%	745	3.6%	△539	△42.0%
建築請負	302	1.4%	369	1.8%	67	22.2%
不動産賃貸	479	2.3%	579	2.8%	99	20.8%
その他	25	0.1%	▲1	▲0.0%	△27	△106.7%
経常利益	2,082	9.9%	1,680	8.1%	△401	△19.3%
親会社株主に帰属する当期純利益	1,435	6.8%	1,157	5.6%	△277	△19.3%

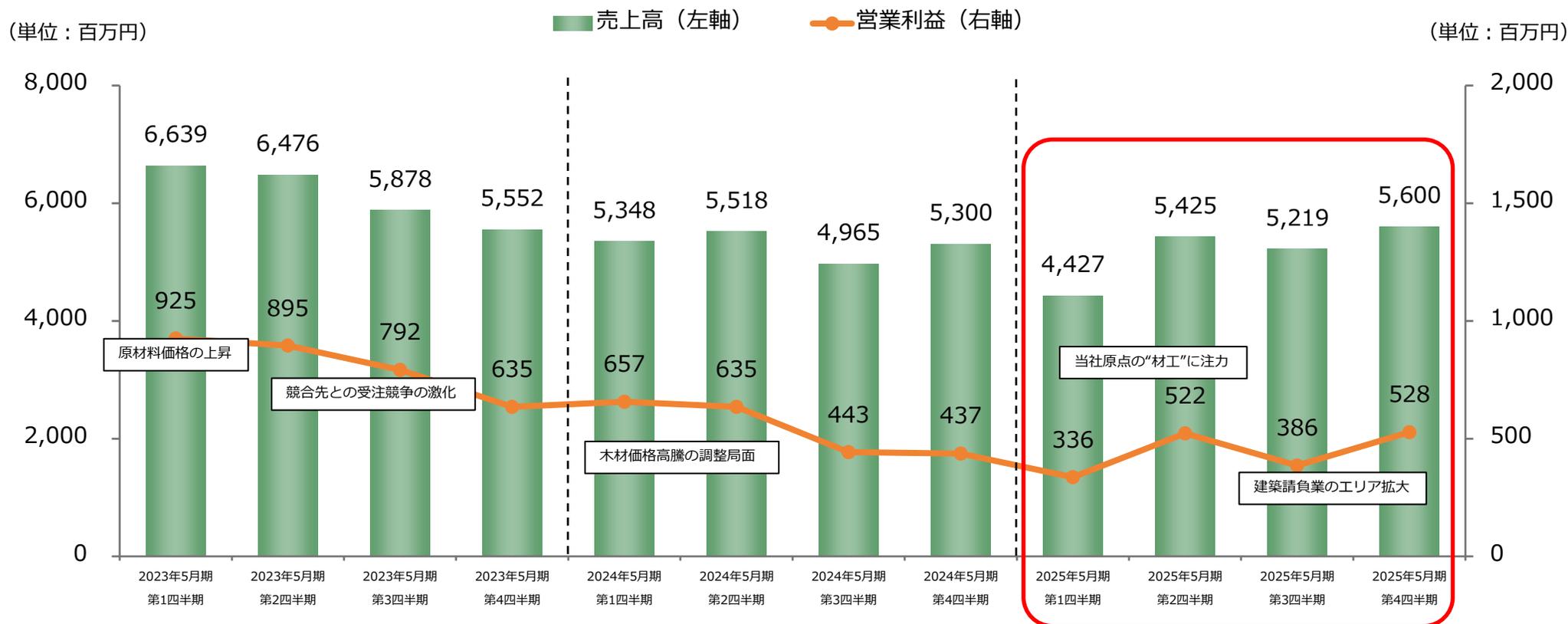
2025年5月期 業績推移



- 新設住宅着工戸数の減少等、経営環境が厳しいなか、営業力強化、※「材工」一体での提供、建築請負事業のエリア拡大等により、売上高は概ね横這いを維持。
- 利益面では、建築請負事業の収益性向上や賃貸物件取得による賃料収入増加がある一方、プレカット事業は競合他社との競争により、販売価格が低位で推移しており、出荷棟数の増加と利益率改善が課題。

※「材工」建築資材と建て方工事

「建て方工事」現場で建物の主要な構造材を組立てること。木造住宅では、土台の据付から柱、梁、棟上げまでの作業工程。

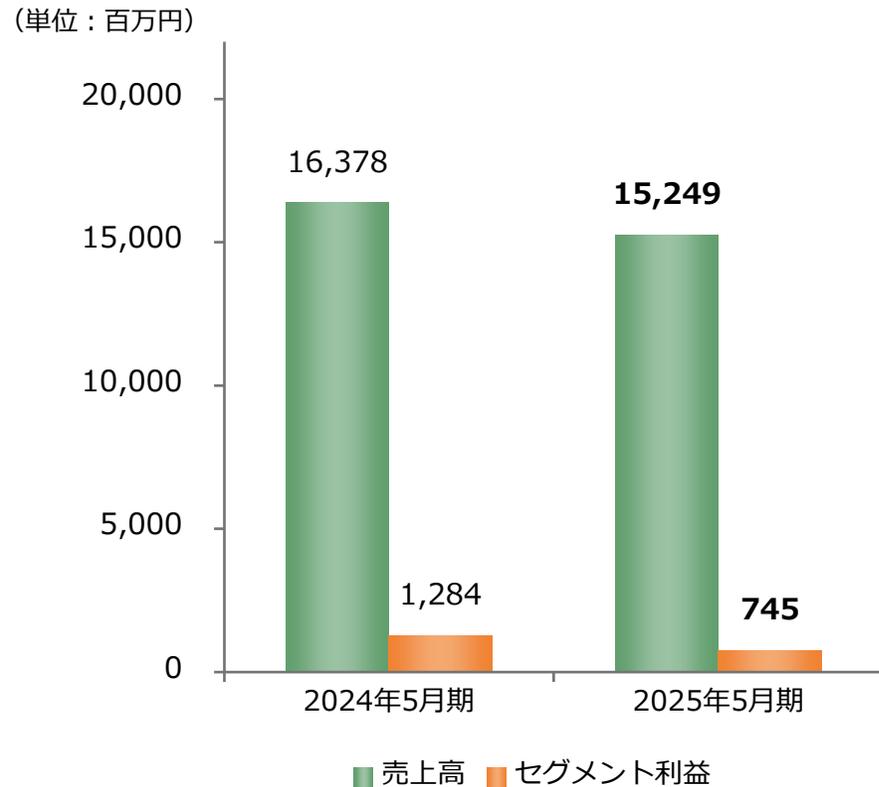


2025年5月期 プレカット事業（前年同期比）

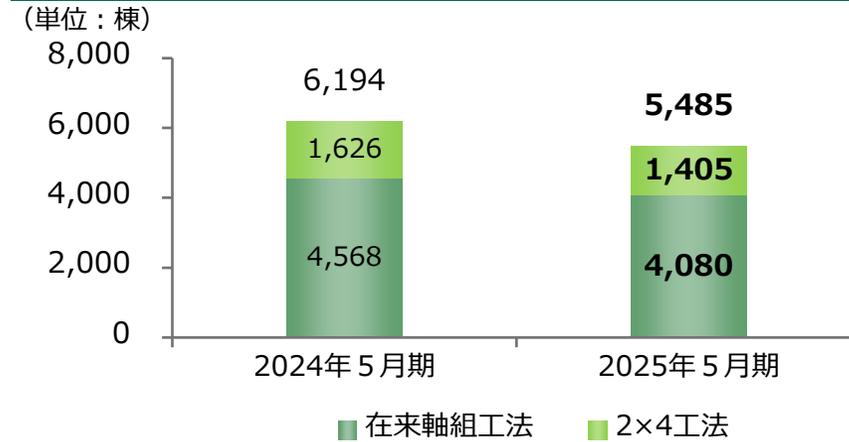


■ 新設住宅着工戸数の減少影響と受注競争激化による出荷棟数減少やプレカット販売価格の低迷に伴い、売上高および利益が前期比減少。出荷棟数増加と利益率改善が課題。

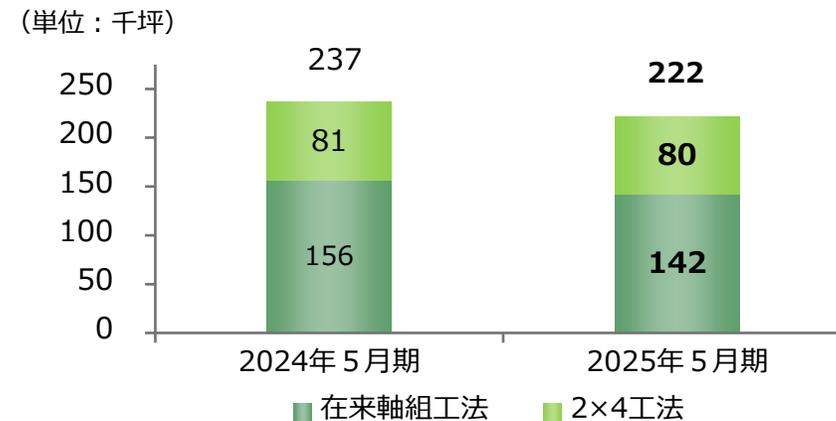
売上高・セグメント利益



出荷棟数



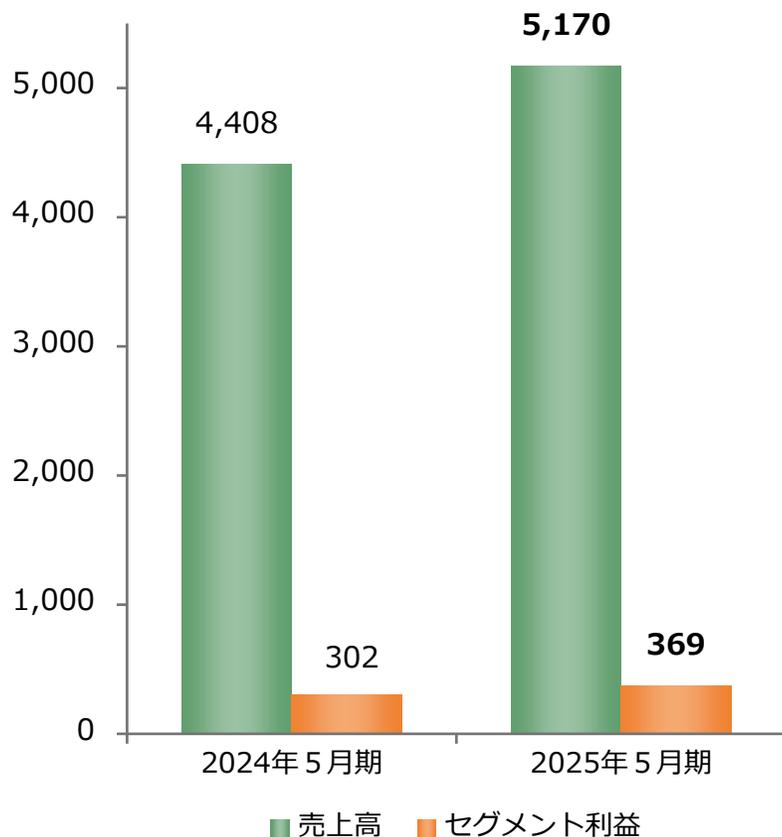
出荷坪数



- 既存取引先への受注数増加に向けた営業強化や新規先開拓、受注時の採算性改善等により増収増益。
- 介護施設や保育園など大型木造施設や神奈川県や城南地区の受注が拡大。

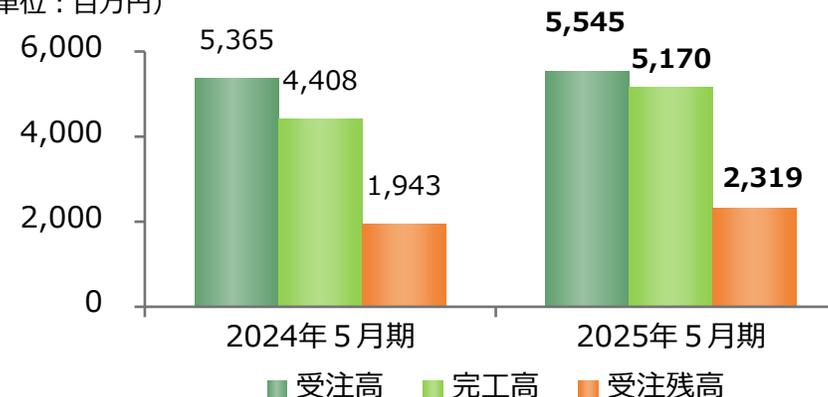
売上高・セグメント利益

(単位：百万円)



受注・完工・受注残

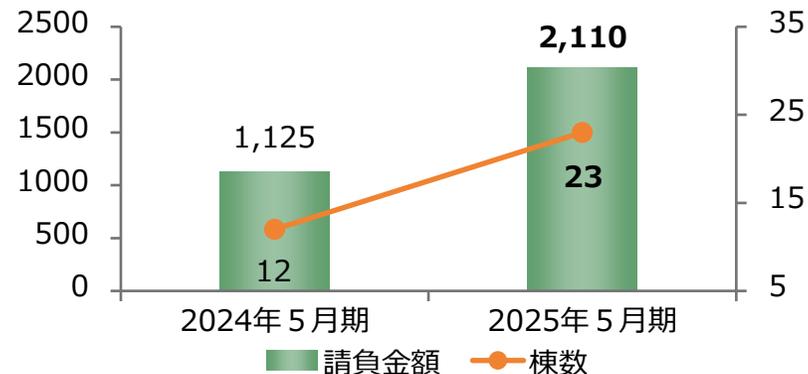
(単位：百万円)



大型(50坪以上)木造住宅・施設着工棟数

(単位：百万円)

(単位：棟)

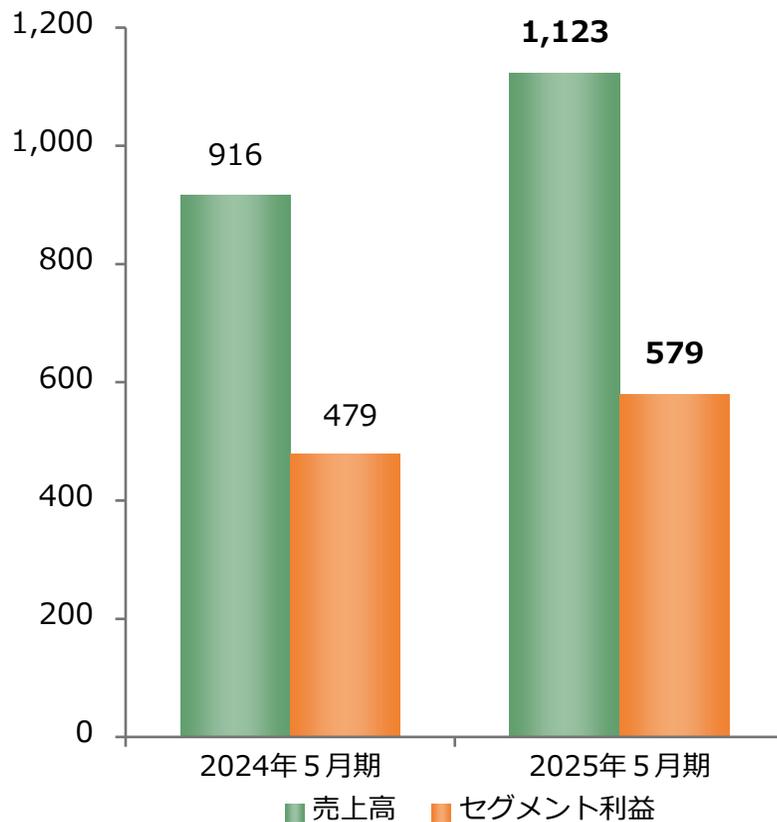




■ 既存物件に加えて、新規物件取得(※)により賃料収入が増加した結果、増収増益。
 ※2025年5月期は8物件取得。うち1物件は期中は取得のみ。

売上高・セグメント利益

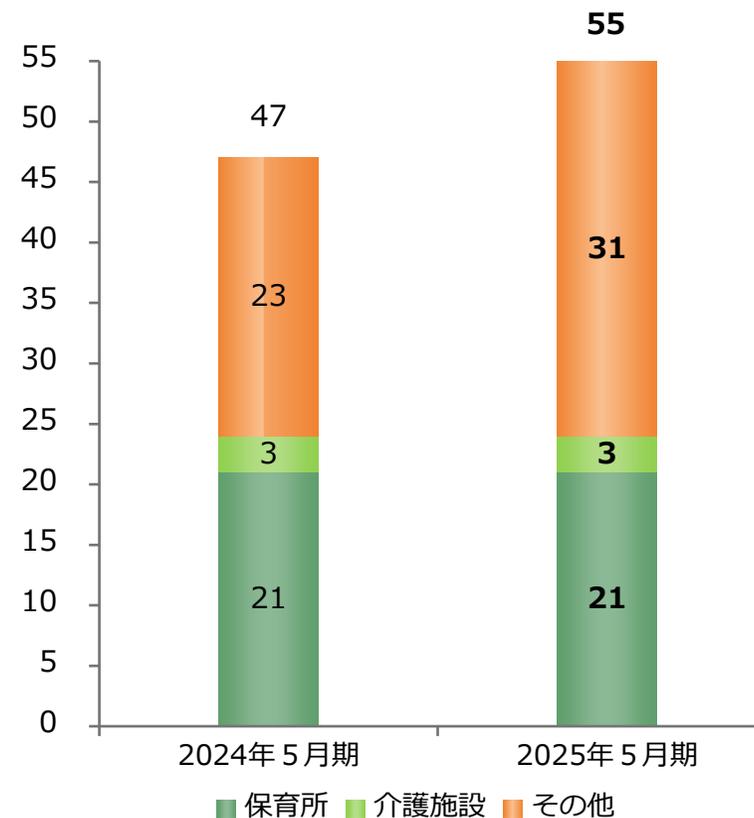
(単位：百万円)



賃貸収入の推移については39ページをご参照ください

賃貸及び管理棟数

(単位：棟)



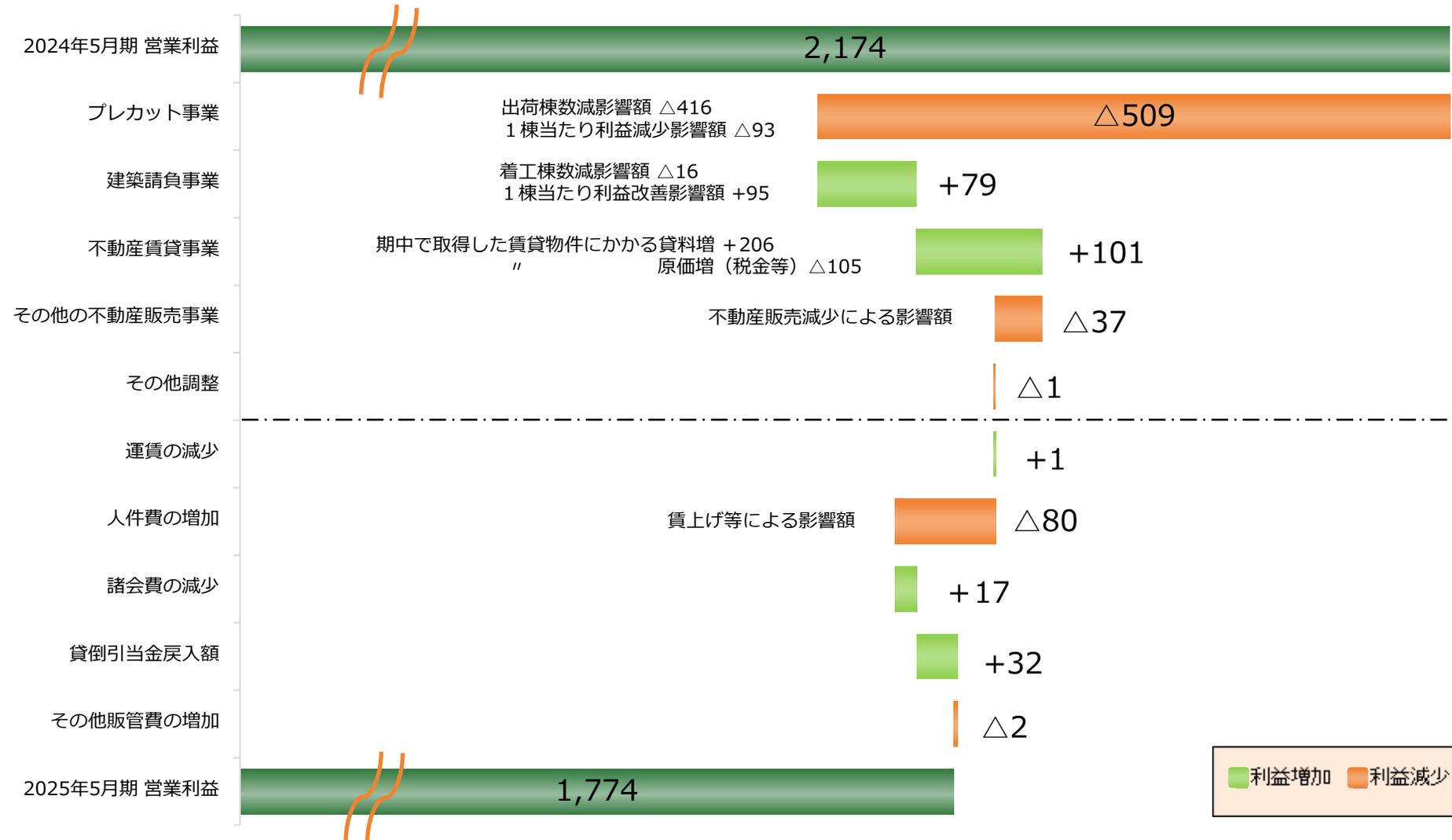
保育所21物件 その他34物件から安定した賃貸収入

2025年5月期 営業利益の増減（前年同期比）



■ 前年同期比での営業利益減少要因は、プレカット事業の下振れ（出荷棟数減少、1棟当たり利益減少）が主因。

(単位：百万円)



2025年5月期 貸借対照表



- 有形固定資産増加は賃貸物件の新規取得が要因。
- 物件取得資金調達により、長期借入金は2,637百万円増加。
- 短期借入金は圧縮し618百万円減少。

単位：百万円	2024年5月期		2025年5月期			
	実績		実績		前期末比	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
流動資産	9,781	41.6%	9,569	35.5%	△212	△2.2%
現金及び預金	5,156	21.9%	5,045	18.7%	△111	△2.2%
受取手形、 売掛金及び契約資産	3,063	13.0%	3,275	12.2%	211	△6.9%
商品及び製品	127	0.5%	69	0.3%	△58	△45.7%
販売用不動産	529	2.2%	330	1.2%	△198	△37.6%
仕掛品	312	1.3%	261	1.0%	△51	△16.4%
原材料及び貯蔵品	518	2.2%	481	1.8%	△37	△7.2%
その他	73	0.3%	106	0.4%	32	44.5%
固定資産	13,750	58.4%	17,368	64.5%	3,618	26.3%
有形固定資産	12,975	55.1%	16,427	61.0%	3,452	26.6%
無形固定資産	101	0.4%	197	0.7%	96	95.0%
投資その他の資産	673	2.9%	743	2.8%	69	10.4%
資産合計	23,532	100.0%	26,938	100.0%	3,405	14.5%

単位：百万円	2024年5月期		2025年5月期			
	実績		実績		前期末比	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
流動負債	8,085	34.4%	7,937	29.5%	△147	△1.8%
支払手形及び買掛金	3,285	14.0%	3,646	13.5%	361	11.0%
短期借入金	2,818	12.0%	2,200	8.2%	△618	△21.9%
1年以内返済予定の 長期借入金	471	2.0%	554	2.1%	82	17.5%
リース債務	73	0.3%	74	0.3%	1	1.5%
未払金	435	1.9%	468	1.7%	32	7.4%
その他	1,000	4.3%	993	3.6%	△7	△0.7%
固定負債	5,159	21.9%	7,711	28.6%	2,551	49.5%
長期借入金	3,983	16.9%	6,620	24.6%	2,637	66.2%
リース債務	119	0.5%	135	0.5%	16	13.5%
その他	1,057	4.5%	955	3.5%	△101	△9.6%
負債合計	13,244	56.3%	15,649	58.1%	2,404	18.2%
株主資本合計	10,167	43.2%	11,177	41.5%	1,009	9.9%
純資産合計	10,287	43.7%	11,289	41.9%	1,001	9.7%
負債純資産合計	23,532	100.0%	26,938	100.0%	3,405	14.5%

- 営業キャッシュフローマージン(営業CF/売上高×100)は10.4%、前期より0.9ポイント上昇(9.5%→10.4%)。
- 積極的な投資(賃貸物件取得等)と余剰資金の積上げ(定期預金)により、投資活動によるキャッシュフローは5,547百万円の減少。
- 財務活動によるキャッシュフローは、主に賃貸物件取得時の資金調達により1,585百万円の増加。

単位：百万円	2024年5月期	2025年5月期
営業活動によるキャッシュフロー	2,005	2,155
投資活動によるキャッシュフロー	△2,307	△ 5,547
財務活動によるキャッシュフロー	34	1,585
現金及び現金同等物の増減額	△265	△ 1,810
現金及び現金同等物の期首残高	5,388	5,122
現金及び現金同等物の期末残高	5,122	3,311

単位：百万円	2024年5月期	2025年5月期
固定資産の取得による支出	△2,216	△ 3,769
減価償却費	416	420

1. 当社の概要
2. 2025年5月期 決算概要
3. 2026年5月期 業績予想
4. 中期経営計画2025及び新中期経営計画2028
5. 参考資料



- 今期も新設住宅着工戸数の減少傾向、受注競争の激化は継続するとの前提において、サイディングプレカット事業の本格参入のほか、材工での営業により売上増加を見込む。
- 収益環境は厳しいものの、材工一体営業をはじめ、諸施策を通じて利益水準は維持していく。

	2025年5月期 実績	2026年5月期 業績予想	前期比
売上高	206.7億円	221億円	106.9%
経常利益	16.8億円	17億円	101.2%
経常利益率	8.1%	7.6%	—
純利益	11.5億円	11.9億円	102.8%

2026年5月期 重点施策

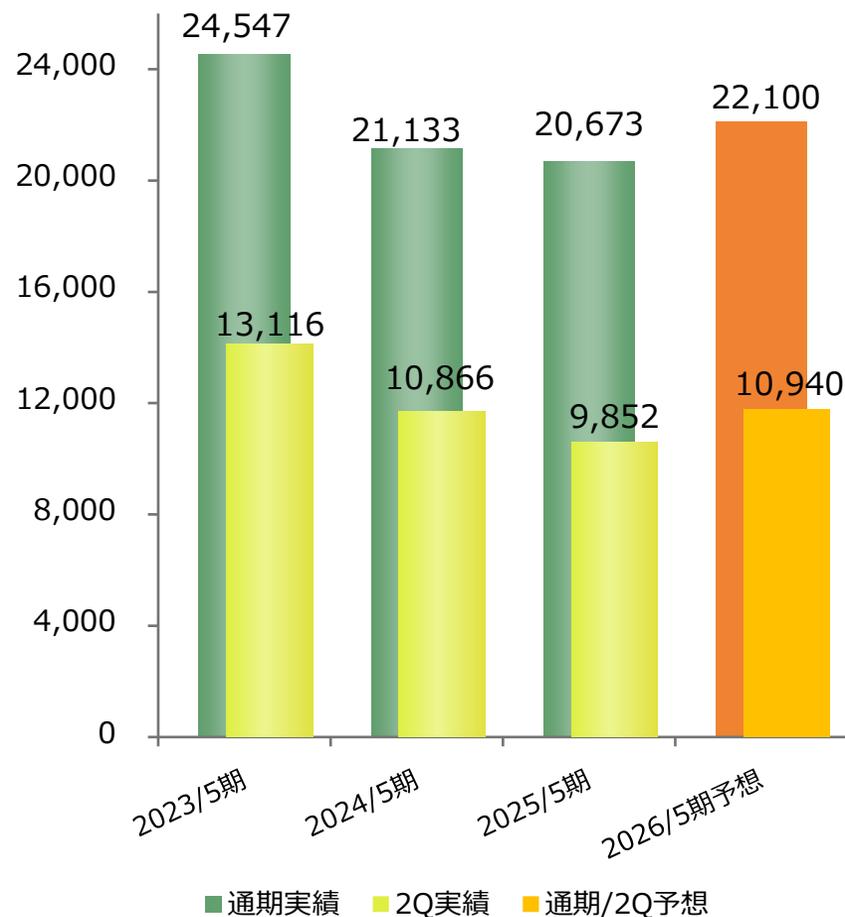
- ✓ 新事業の展開 : サイディングプレカット事業の本格参入
- ✓ 材工一体営業の強化 : 建築資材と建て方工事の一体提案による受注増加
- ✓ 賃貸物件の取得 : 将来の安定した賃料確保に向けた優良賃貸物件の取得



■ 2026年5月期は、売上高は前期比106.9%、営業利益は同101.4%と予想。

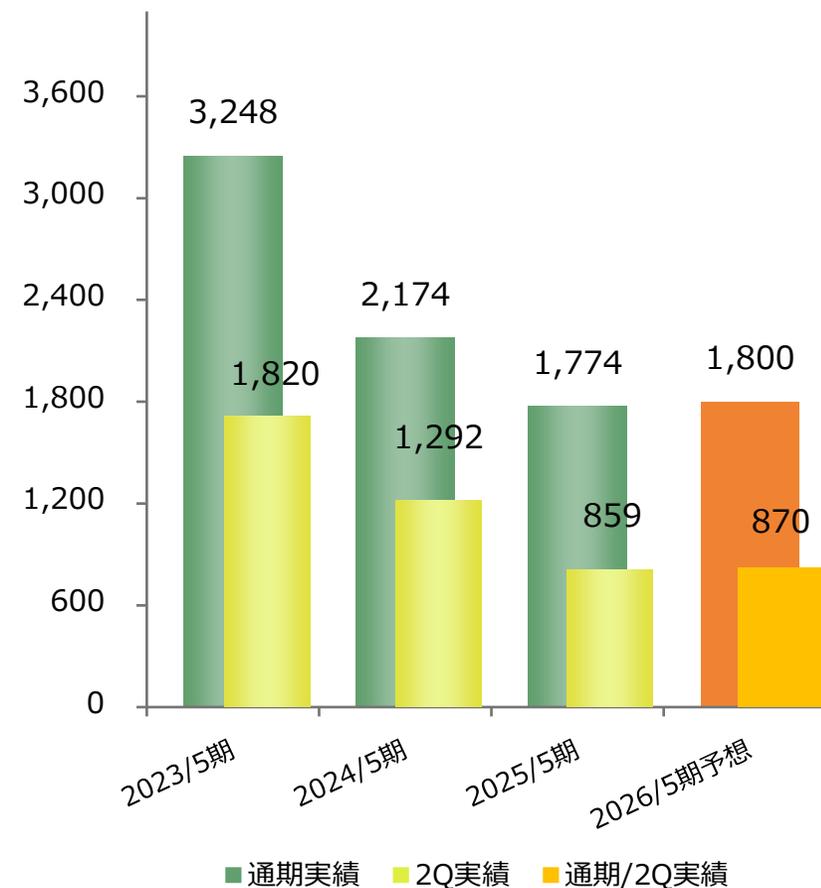
売上高

(単位：百万円)



営業利益

(単位：百万円)



- プレカット事業は、競合他社との価格競争が激化の中、適正利益を確保し、『材工』での提案を行うことで、出荷棟数を確保し、前期対比微増を見込む。
- 建築請負事業は、戸建ては東京都城南・城西地区、神奈川県へのエリア拡大、非住宅は前期の1,000坪超完工実績をアピールした営業強化。

(単位：百万円)	売上高	前期比	セグメント利益	前期比
プレカット	16,322	107.0%	819	109.9%
建築請負	5,428	105.0%	380	102.9%
不動産賃貸	1,296	115.4%	684	118.8%
その他	400	112.5%	25	—%



プレカット事業	2026年5月期	前期比
プレカット棟数	5,855棟	107.9%
プレカット坪数	228千坪	102.8%
トラック保有台数	26台	123.8%
建て方棟数	862棟	114.2%
建築請負事業	2026年5月期	前期比
建築完工	220棟	125.7%
大型木造施設	15棟	150.0%

不動産賃貸事業	2026年5月期	前期比
保育所賃貸数	23物件	109.5%
福祉施設・ アパート等賃貸数	40物件	117.6%
不動産販売事業	2026年5月期	前期比
販売区画数	30区画	230.8%

1. 当社の概要
2. 2025年5月期 決算概要
3. 2026年5月期 業績予想
4. **中期経営計画2025及び新中期経営計画2028**
5. 参考資料

社是・経営理念

Customer Satisfaction through Lumber 木材を通じて顧客に満足戴ける取引に徹する

- 一、我社は、木造住宅資材の販売流通を通して社会に貢献する。
- 二、我社は、顧客満足と会社の繁栄、社員の幸福を一致させる。
- 三、我社は、数値に基づく行動と現場主義の徹底を行動原理とする。

目指す将来像

創業50周年(2032年)を迎えるシー・エス・ランバーグループの目指す将来像

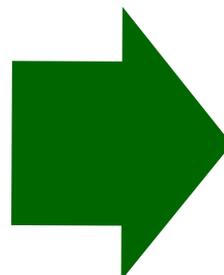
中期経営計画
2028

- ▶ 新設住宅着工戸数が減少する中、競合他社との価格競争が厳しいことから建て方を提案する『材工』でのプレカット販売を強化
- ▶ 安定的な収益源として賃貸収益物件を中心とした不動産事業の増強

高品質なプレカット製品の提供を
通じた顧客満足の追求



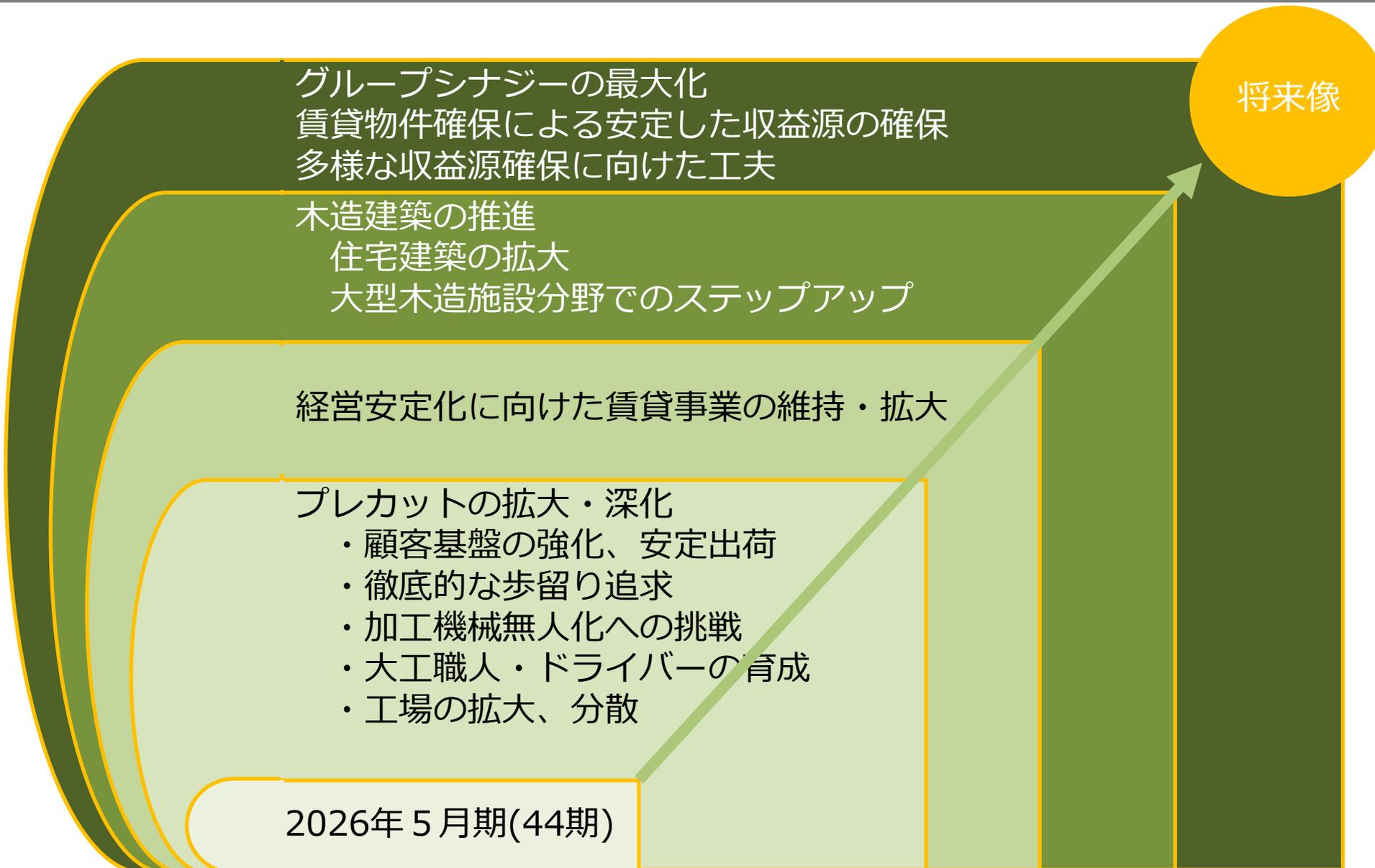
賃貸事業からの安定的な収益を背景に
創意工夫を通じて進化



プレカット販売を基盤としつつ、
プレカット販売の枠にとらわれることなく
創意工夫で多様な収益源を創りながら、
事業の拡大、成長を続ける企業集団を目指す。

基盤となるプレカット販売では、

- ▶ 建て方提案を伴う『材工』での販路拡大
- ▶ サイディングプレカットへの参入
- ▶ 工場の無人化に挑戦



- 前中期経営計画の3年間において、予想を上回る住宅着工戸数の減少、競合他社との競争激化によるプレカット販売価格の下落により経営目標は未達。修正目標に対しては、売上は達成するが、経常利益では未達となった。
- 円安、物流費や人件費の上昇、住宅設備機器の値上がりに加え、金利上昇懸念や実質賃金の低下等の要因も相俟って消費者特に一次取得者層の住宅購入意欲が盛り上がりならず、新設住宅着工戸数は引続き伸び悩む傾向が継続すると思われる。

	2025年5月期 経営目標 ①	2025年5月期 期初予想	2025年5月期 修正予想 ②	2025年5月期 実績	経営目標 ①に 対する達成率	修正目標 ②に 対する達成率
売上	290億	230億	200億	206億	71.3%	103.4%
経常利益	35億	21.5億	19億	16.8億	48.0%	88.5%
経常利益率	12.0%	9.3%	9.5%	8.1%	—	—
純利益	24億	14.8億	13億	11億	45.2%	89.1%



	2025年5月期 計画	2025年5月期 実績
プレカット棟数	7,200棟	5,485棟
プレカット坪数	277千坪	222千坪
トラック保有台数	23台	21台
建て方棟数	1,000棟	760棟
建築完工	250物件	175物件
大型木造施設	25物件	10物件
保育所賃貸数	25物件	21物件
福祉施設・ アパート等賃貸数	24物件	34物件
不動産販売区画	80区画	62区画

- ↓ 新設住宅着工戸数の減少する中、競合他社との価格競争激化により、適性利益を確保していくことに重点を置いた結果、目標未達
- ↓ 増トン車の導入により、2台分に相当
- ↓ 人員の確保が遅れたことから未達となるが、既に体制整備済であり今期以降棟数増の見込
- ↓ 新たに蒲田に拠点を新設し、神奈川県、城南地区への販路拡大の途上
- ↓ 物件数未達となるも、大型施設1,000坪超が完工し、施工ノウハウを蓄積
- ↓ 待機児童の解消があり、募集案件がないため、他の収益物件へ投資
- ↑ 安定的な収益源と将来の分譲候補地として積極的に投資
- ↓ 販売ノウハウの蓄積、仲介企業との連携強化
(不動産販売 : 3年間累計)

- 特に賃貸物件へ積極的に投資。次世代経営幹部向け研修の継続。基幹システム刷新。

不動産投資 56億円	
8,754 _{百万円}	賃貸物件の購入
579 _{百万円}	販売用不動産の購入
人材育成・採用 7億円	
586 _{百万円}	次世代経営幹部候補 研修／採用 大工職人育成（実習生）
IT・DX推進・その他 5億円	
292 _{百万円}	建築工程管理の効率化 基幹システム刷新に向けた業務整理 その他

- 安定収益の確保、賃貸物件への投資と返済をバランスよく実施し、財務体質を強化。

財務体質の改善

有利子負債 25億円未満

2022年6月 – 2025年5月期

返済額 10,040百万円

残 9,956百万円

※リース債務を除く

既存不動産の賃料収入（見込）

年間賃貸収入 1,193百万円

既存保育所 年間賃貸収入 530百万円

その他不動産 年間賃貸収入 664百万円



■ 着工戸数が減少して行く中、木材価格の低下、競合他社との競争が激しくなっており、増収と安定的な利益確保を進め、2032年には経常利益率 12%以上、自己資本利益率 10%以上の利益率を維持できる企業を目指します。

	2025年5月期	2028年5月期	
売上	206億円	276億円	安定的な利益水準の維持 投資余力の増強 企業価値の向上
経常利益	16.8億円	27億円以上	
経常利益率	8.1%	10.0% 以上	
純利益	11億円	19億円	

財務体質の改善 2032年

- ・ 既存保育所の借入金を7年以内に返済 ⇒ 2024年5月達成済
- ・ 賃貸不動産投資を継続しつつ、借入金の返済を推進 ⇒ 有利子負債 25億円未満



	2025年5月期	2028年5月期
プレカット棟数	5,485棟	5,900棟
プレカット坪数	222千坪	249千坪
トラック保有台数	21台	30台
建て方棟数	760棟	1,040棟

	2025年5月期	2028年5月期
建築完工	175物件	280物件
非住宅物件	10物件	15物件

戦略

営業体制再構築

取引先への提案力強化による受注拡大
 不動産会社、工務店へ新規取引強化、紹介ルート確保

- ▶ 建築請負件数の拡大
- ▶ 1,000坪超大型物件完工実績のアピールを行い、入札案件への積極的参加
- ▶ 非住宅請負件数の拡大



	2025年5月期	2028年5月期
保育所賃貸数	21 ^{物件}	23 ^{物件}
福祉施設賃貸数	3 ^{物件}	3 ^{物件}
アパート等賃貸数	31 ^{物件}	48 ^{物件}

戦略

賃貸事業への更なる投資（重点エリア 千葉市周辺）
 景気に左右されない安定的な収益基盤の確立
 将来の戸建て・マンション分譲に向けた収益物件の
 取得増強

不動産販売事業	2025年5月期	2028年5月期
販売区画数	62 ^{区画}	30 ^{区画} (3年間累計)
新規事業	2025年5月期	2028年5月期
建材販売	7 ^{億円}	11 ^{億円}
サイディング	—	3,600 ^棟

- 『企業は人なり』の言葉通り、弊社の未来を切り拓く力を育てます。

人材戦略

- ・ 次世代経営幹部の育成、経営陣の再編成
- ・ 人材の育成・確保、若手の積極的な登用
- ・ 社員の知識向上・スキルアップ、多能工の育成
- ・ 女性社員、障がい者の活躍促進に向けた環境整備

グループ組織戦略

- ・ グループ最適化による連結ベースでの収益極大化
- ・ リスク管理態勢の強化
- ・ グループ企業間の連携強化

- 安定収益源の確保に資する不動産賃貸事業への積極投資の継続と『材工』の担い手となる人材の育成。

不動産投資 70億円

賃貸物件・工場用地の取得

- ・ 適正利回りを確保した取得
- ・ 現工場とシナジー効果のある場所の選定（M & A も視野）

人材育成・採用 7億円

- ・ 次世代経営幹部の育成
- ・ ドライバー確保・育成
- ・ 大工職人確保・育成

I T ・ D X 推進 ・ その他 11億

- ・ 配送準備効率
- ・ 歩留りの追求、管理
- ・ プレカット加工機の無人化

基本方針

- 将来の事業展開と経営体質強化に必要な内部留保の増強を図りつつ、配当の継続性と安定性を考慮した上で、経営成績に応じた配当を実施することを基本方針といたします。
- 中長期的には、人口減による世帯数の減少が見込まれることから新規住宅着工戸数の減少が予測されます。そのため、経営の安定化、借入金の返済、プレカット加工機の無人化、賃貸事業への投資を経営方針に掲げ、その財源として剰余金を活用してまいりたく考えております。
- 今後、継続的な業績拡大が見込まれる段階で配当性向20%を目指してまいります。

2024年5月期 1株当たり年間配当金（実績）：80円（期末80円） 連結配当性向 10.3%

2025年5月期 1株当たり年間配当金（実績）：80円（期末80円） 連結配当性向 12.8%

2026年5月期 1株当たり年間配当金（予想）：80円（期末80円） 12.4%

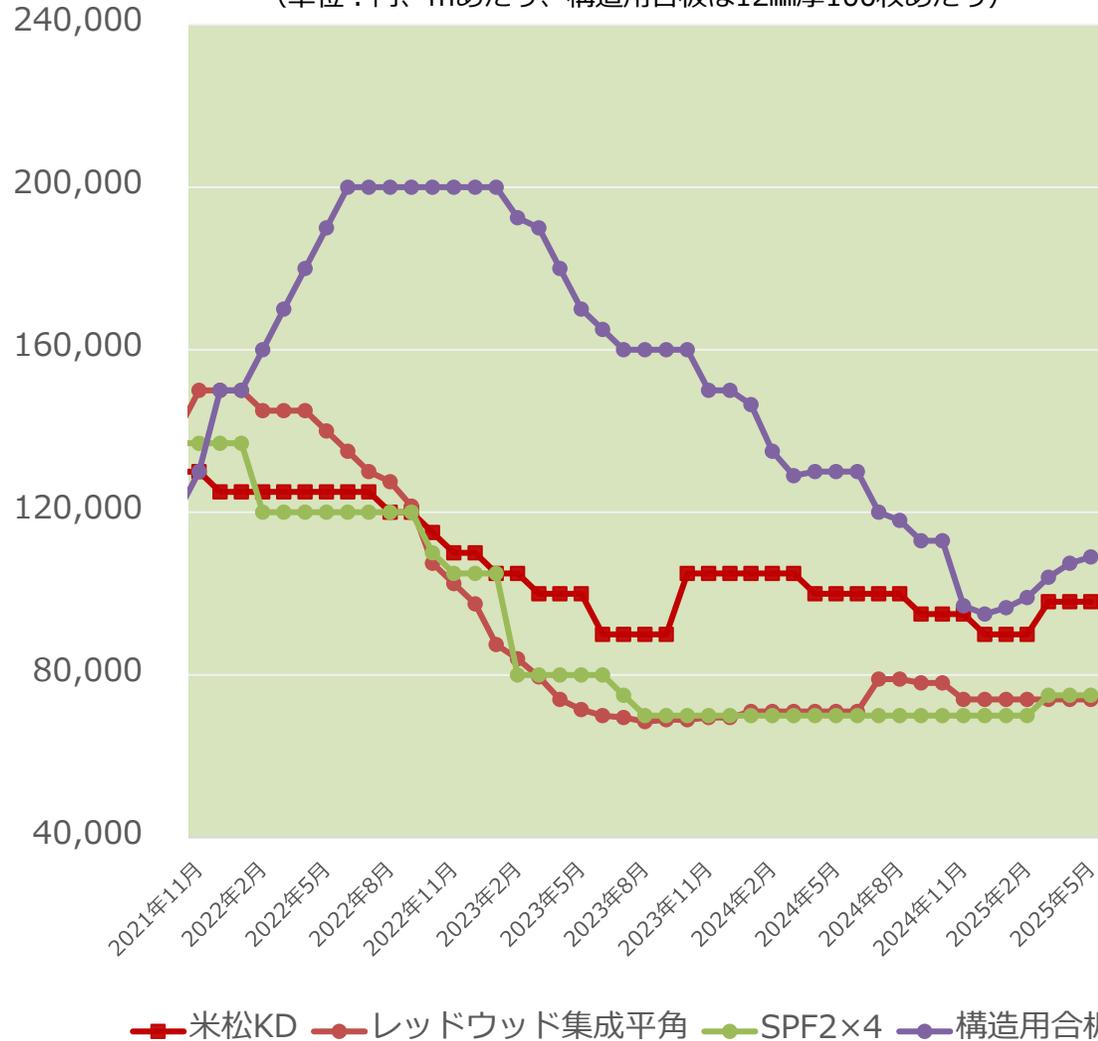
1. 当社の概要
2. 2025年5月期 決算概要
3. 2026年5月期 業績予想
4. 中期経営計画2025及び新中期経営計画2028
5. 参考資料

国内の木材価格動向と当社プレカットの販売価格（1棟当たり平均）



国内の木材価格動向

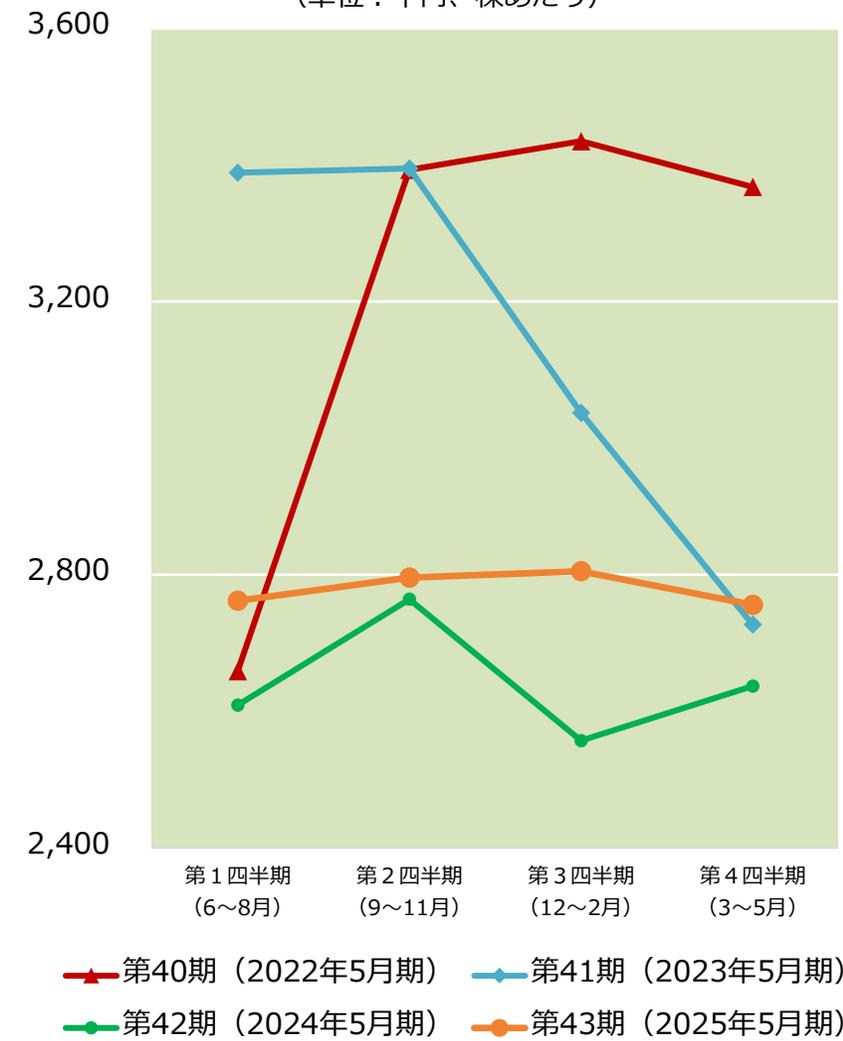
(単位：円、㎡あたり、構造用合板は12mm厚100枚あたり)



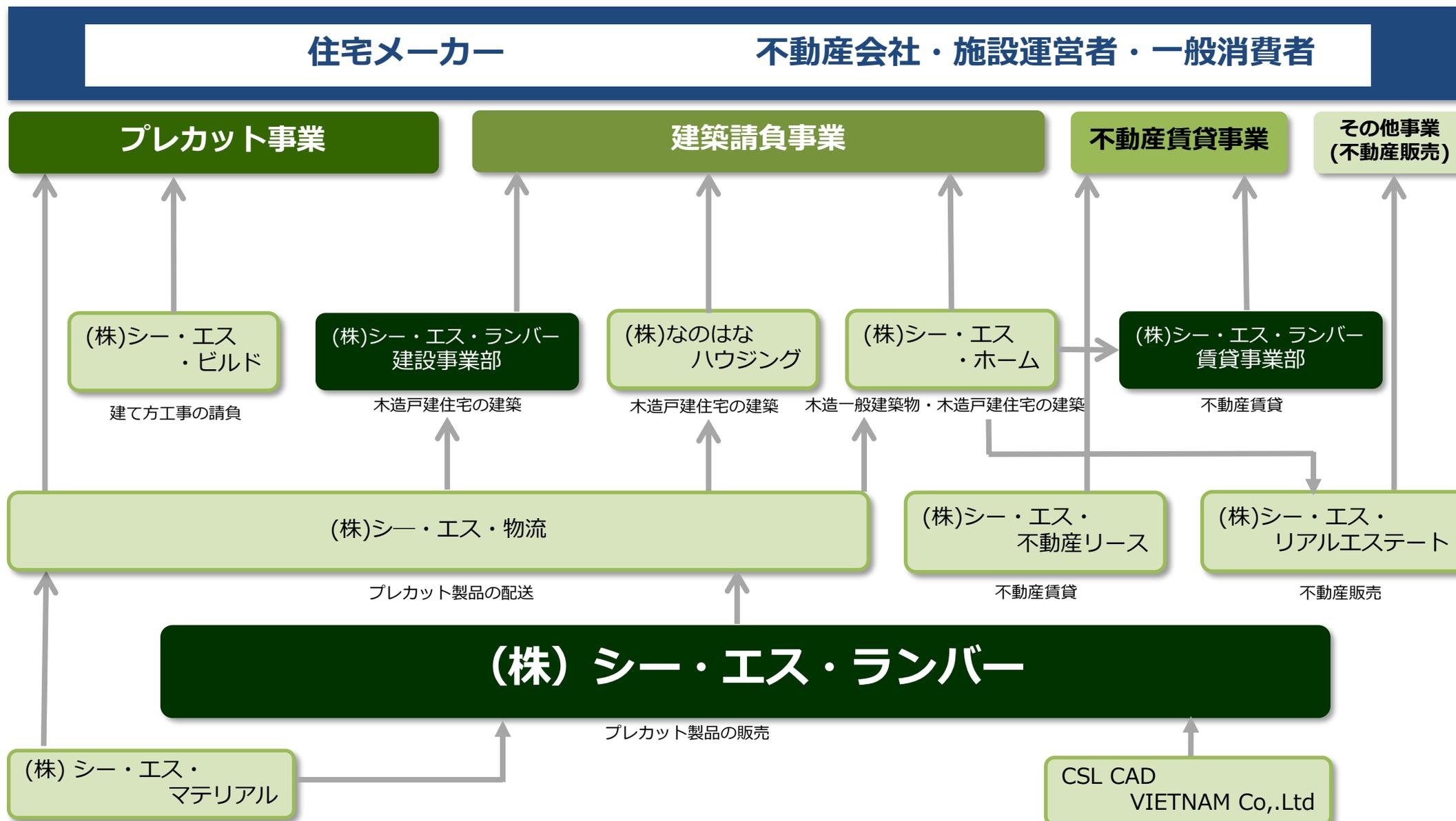
出所：日刊木材新聞

当社プレカットの販売価格（1棟あたり平均）

(単位：千円、棟あたり)



出所：当社決算短信

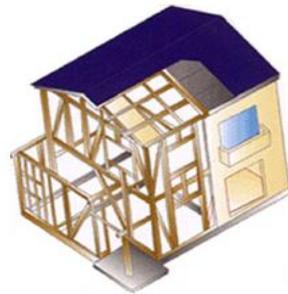


在来軸組工法における設計 (CAD)、木材のプレカット加工及び販売
ツーバイフォー工法における設計、木材のプレカット加工、パネルの製造及び販売

「木造建築の主要2工法に対応」した加工・販売

在来軸組工法 (山武工場)

日本で最も主流の工法
基礎の上に木の土台を据えて、柱と柱を梁で水平につぎ、
対角線を筋交いで補触する



ツーバイフォー工法 (東金工場)

枠状に組まれたツーバイ材に構造用合板を打ち付けた壁や
床 (面材) で支える「枠組み」構造
隙間が大変少なく、気密性・防音性に優れている



北欧などからの製品輸入が中心のログハウスプレカット事業に参入 (2019年)



カントリーテイストのある木造家屋が都市部住宅街にも建ち始めている傾向を捉え、ログハウスメーカーとタイアップしてプレカットを開始
在来軸組工法、ツーバイフォー工法の技術も必要とされており、親和性大

プレカット事業を軸に、建築請負事業も展開している

ATAハイブリッドトラス構法のプレカット事業に参入 (2020年)

「無柱大空間を可能にした非住宅・中大規模木造トラス構法」を生んだ株式会社ATA（アタ社）様の提携プレカット工場となる

商業・工場・スポーツ施設など建物用途は多岐多様、鉄骨から木造への脱炭素の動き



木造戸建住宅・木造一般建築物の建築（大型木造施設等）の建築請負

当社のプレカット製品を仕入れて、
木造住宅・保育所等の大型木造施設を合わせ
年間200棟の施工

事務所兼店舗（東金市）

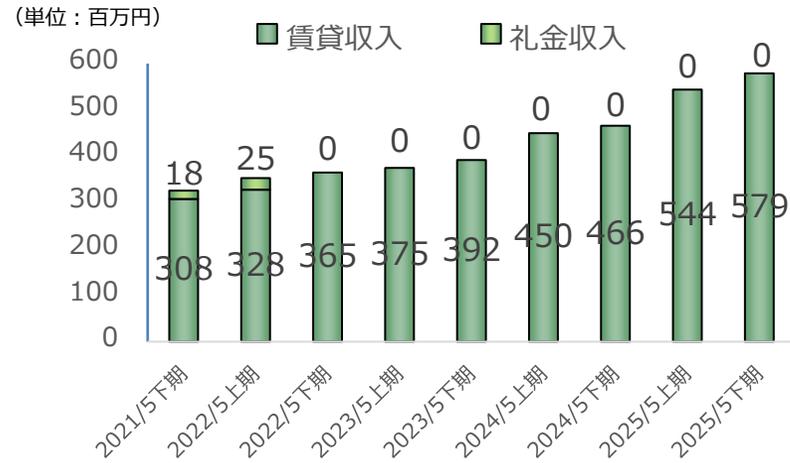


住宅兼施設（花見川区幕張町）



長期安定契約を基本方針とした不動産賃貸及び管理

賃貸収入・礼金収入の推移



共同住宅 (千葉市若葉区)



共同住宅 (船橋市新高根)



共同住宅 (船橋市前原東)



付加価値を創造する木造建築のトータルサービス

- 材木店経営で培った木材（業界）に関する豊富な知識を活かし、木材の仕入れから加工、建築、賃貸・販売までグループ内で行うことで、付加価値を創造

プレカット事業 歩留まり（端材の削減）の追求力



木材の仕入れ



加工



配送

- 木材の豊富な知識を活かした仕入れ、提案力
- 木造建築の主要2工法へ対応した安定力
- コスト競争力(歩留まり追求力)、供給力、高品質
- 首都圏特化による現場対応力、効率性
- 強い顧客基盤

建築請負事業



建築

不動産賃貸事業



賃貸・管理

その他事業（不動産の販売）



住宅用地の販売



住宅販売

ピッキングシステムと新式プレカット加工ラインの導入により、**高い歩留まり・生産性を実現**

ピッキングシステム（邸別ピッキング用自動倉庫）

更なる「歩留まり追求」を目的に導入

⇒ **歩留まりが約10%向上**

- ・コンピュータ制御による在庫管理技術の向上に伴い、必要な木材のより適切な仕入れが可能となり、**材料費を削減**
- ・材料の木材の入庫、出庫の自動化により、**生産性も向上**



プレカット加工ライン



- ・加工能力向上に加え、従来難しかった複雑な加工も可能になり機械化率が上昇し、**生産性も向上**
- ・製品の**品質安定化**にも貢献

全部位 (壁・床・屋根) のパネルを加工し、現場に配送

- ・ 建築現場における工数が大幅に削減される他、高度技術者も不要となり、**付加価値の高い製品**を提供



壁パネル



床パネル



屋根パネル

大量かつ安定供給が可能な東金工場

- ・ **広大な敷地 (68,435㎡)** の東金工場に設備を集約し、パネルの**大量生産・保管、安定供給体制**を確保
- ・ 東金インターから約10分の好立地で、**効率化された自社配送**

機械化が進んだ生産ライン

- ・ 在来軸組工法で培ったノウハウを活かし、**機械化を推進**
複雑な形状の加工においても機械化を進め、高品質、高い生産性を確保



マルチカットライン
(木材のカット)



マルチカット製品



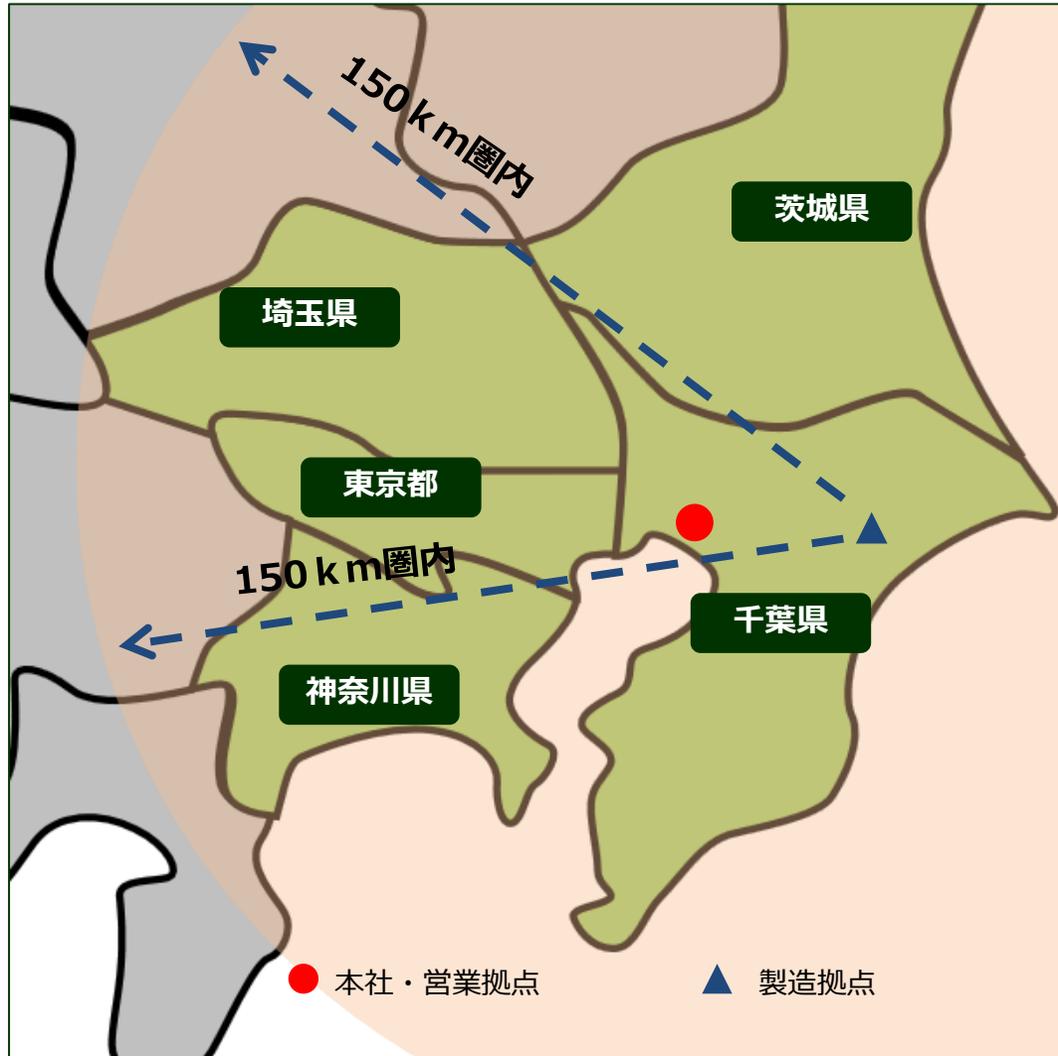
パネルシーシングライン
(自動釘打ちマシン)

ベトナム子会社でのCAD設計

標準的な建物の設計を行い、**コスト低減**

- クロス (直切り) カットライン 2ライン
- マルチカットライン 2ライン
- パネルシーシングライン 2ライン

人口が集中する首都圏 (1都4県) に絞った生産・営業拠点



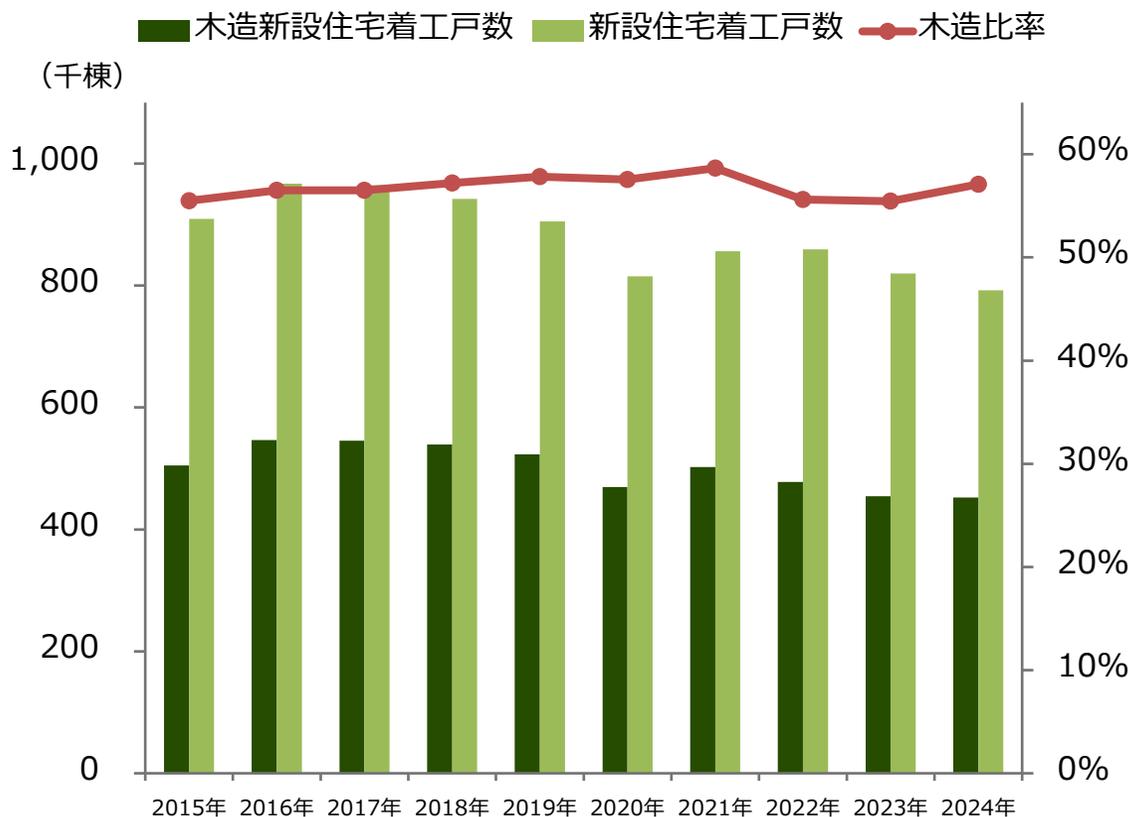
展開エリアを絞ることにより

- ・お客様のニーズへの迅速な対応 (企画・設計・アフターサービス)
 - ・営業効率
 - ・配送効率
- 生産性向上による
コスト競争力

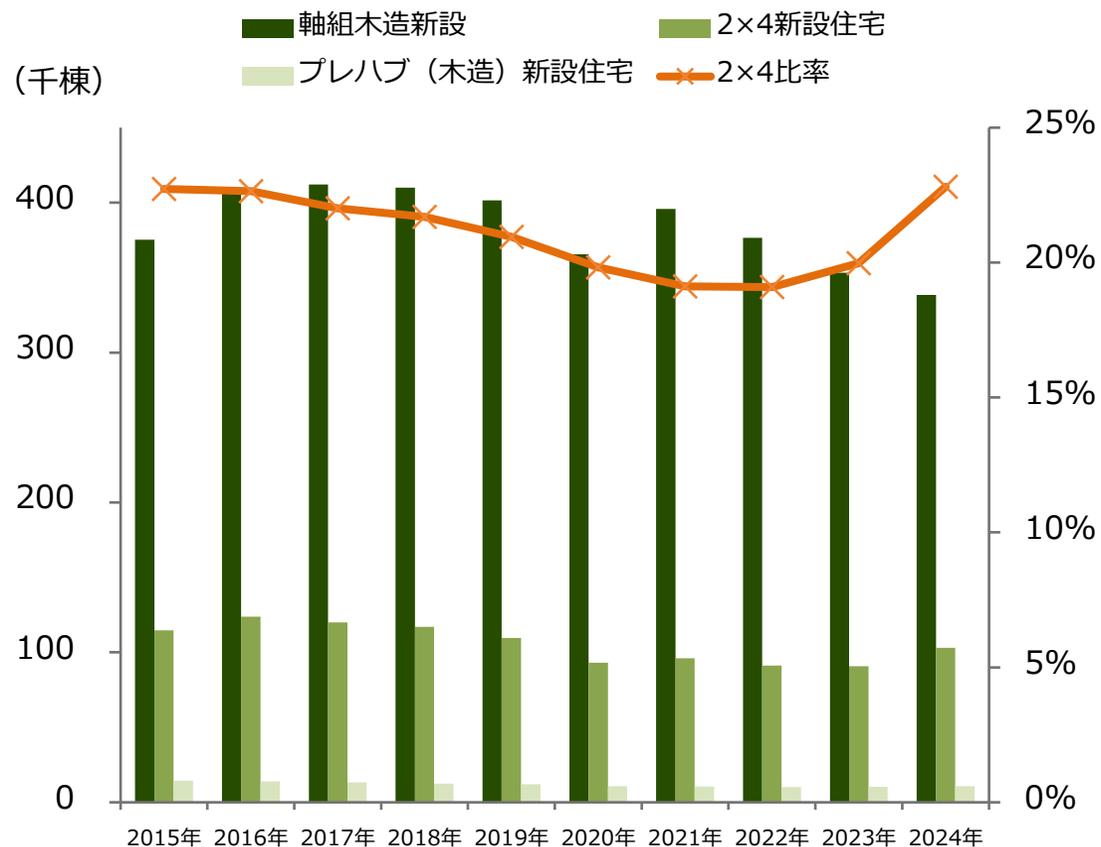


出所：国立社会保障・人口問題研究所「全国人口将来推計」より当社作成

新設住宅着工戸数に占める木造新設住宅着工戸数の割合



工法別木造新設住宅着工戸数とツーバイフォー比率



出所：国土交通省「建築着工統計調査住宅着工統計」より当社作成



E

当社グループで展開している事業は、炭素を貯蔵する働きのある木材資源を有効活用していくビジネスモデルとなっており、事業の発展を通じて、地球環境の維持、特に地球温暖化防止に対して、積極的にその役割を果たしてまいります。

木材資源に関する3R活動
 合法木材の利用推進
 再生可能エネルギーの利用推進
 省エネルギー化の促進

S

プレカット事業、建築請負事業において、ISO9001を取得しており、プレカット製品の設計、製造、建築物の設計、施工などの品質維持・向上を図っております。

少子化・待機児童対策
 雇用形態による労働条件格差の是正
 年次有給休暇の取得の促進
 労働環境の多様性
 多様な人材の採用
 労働安全衛生・メンタルヘルス

G

木材に関する事業を通じて、お客様に満足して頂くとともに、株主・従業員・取引先等、すべてのステークホルダーとの良好な関係の構築による企業価値の向上を目指してまいります。

社外役員によるガバナンス
 コンプライアンス推進体制
 リスクマネジメント体制
 内部通報制度



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



ESGに関する取り組みの詳細については、ホームページ等を通じて、今後、随時更新・公開してまいります。

株式会社シー・エス・ランバー

【お問い合わせ先】

株式会社シー・エス・ランバー

執行役員 管理本部 部長 上原 隆

TEL 043-213-8810

FAX 043-213-8819

URL <https://www.c-s-lumber.co.jp>

<ご案内>

本資料に掲載されている業績見通し、その他今後の予測・戦略等に関わる情報は、資料作成時点での弊社の判断であり、その情報の正確性を保証するものではありません。市場環境等の様々な要因により、今後の業績は本資料の内容と異なるものとなる可能性があります。

また、本資料は投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定は、ご利用者自身の判断において行われるようお願い申し上げます。

なお、いかなる目的であれ、本資料を当社の許可なく複製複製等を行わないようお願い申し上げます。